

eco2郎 (エコジロウ) とともに 誰かではなく、みんなで「夢」を描く

株式会社みやま (長野県茅野市)



1947年の創立以来、67年にわたりプラスチックの金型製作と射出成形に取り組んできた株式会社みやま。1995年に金属の代替樹脂であるPPS(ポリフェニレンサルファイド)の成形技術を確立・商品化、最近ではお客様のご要望を受けた完成品の商品開発にも取り組みはじめ、ますます元気に活躍されています。

固有の技術をしっかりと社内に培い、次の世代に受け継ぐために同社では、「環境保護と生産活動が合致する取り組みが不可欠」と、エコアクション21の維持・改善活動を4年間継続しています。

八ヶ岳に抱かれ、諏訪湖を臨む素晴らしい自然環境に恵まれた地域に立地し、全社員一丸となって経済発展と環境保全活動を推進する同社に、エコアクション21導入のいきさつや成果など貴重なお話をお伺いしました。

契機

茅野市の説明会に参加したことがきっかけになりました

毎年、季節ごとに繰り返される異常気象に、地球温暖化を実感し始めていたところでした。ここ茅野市が、エコアクション21を広めるPR、説明会を開くことになりました。ちょうど会社としても何かしないといけないと考えようになった頃です。ごみの分別も廃プラの削減も電気代の節約も、どれもみな取り組んでいましたが、「認証取得の説明会があるなら」と参加しました。そこで、当社でも頑張れそうなシステムであることと、認証取得に補助金があることを知り、導入を決めました。

苦勞

事務局だけのやっつけ仕事、全社活動に落としこめていなかった

「エコアクション21のために新たにやるべきことはない」「社内の環境活動はやり尽くしている」、エコアクション21を取得する前から、環境活動に取り組んでいた私どもは、そう胸を張っていました。それが、1回目の審査を受けてみると…「事務局だけのやっつけ仕事、全社活動に落としこめていない」と厳しく指摘されました。たしかに「消します、止めます」だけでは、ある程度のところまでくると、やる事がなくなってしまいます。そこから「環境目標の達成には本来業務の改善しかない」という当社の基本姿勢が生まれました。

効果

若手社員が課題解決の求心力になる機運を生んでくれました

若手を巻き込んで実施体制を再編成、「若手中心で進めていこう」の考えは、社内リーダーが課題解決の求心力になっていく機運を生んでくれました。審査人の指摘・指導をきっかけに、エコアクション21に対応する体制を一新したおかげです。そのなかで、「限られた資源・もので良品をつくる」ことが「温室効果ガス排出の削減」につながるという、当たり前でありながら、ものづくりに携わる上で大切なことにあらためて気づかされました。

株式会社 みやま (代表取締役社長 百瀬 眞希)

長野県茅野市ちの176-5

創業：1947年2月

資本金：4000万円

事業内容：プラスチック射出成形製造、PPS材(金属代替樹脂)の製造



EA21認証・登録番号:0007191

(最新の環境活動レポートは <http://www.ea21.jp/list/pdf/0007191.pdf> をご覧ください)

環境負荷削減へのユニークな取り組み

当社は、環境活動=エコアクション21を核にして、夢、未来、将来を考えています。



みやま未来プロジェクト

株式会社みやまの「あるべき姿」は

世の中に必要とされる企業である

従業員一人一人が輝ける企業である

経営者と従業員が信頼関係をもって働ける企業である

こと。

「エコアクション21」というツールを使ってその姿を実現するために、「エコアクション21」を中心に考えられた「みやま未来プロジェクト」。

みやまビジョンマップ



全従業員が一堂に会する「全社研修」を実施。そこで「みやまが将来どうなりたいか?」、なりたいみやまへの思い、夢を手書きでマップに。エコアクション21の認証マークも誇らしげに描かれています。

10年後のビジョン



なりたいみやまへのステップ、10年後にあるべきみやまを描いています。

本来業務の改善と環境活動に投下した教育費用は、売上高や経常利益など、成果に連動しています

環境活動 こぼれ話

エコアクション21の活動や現場での教育、そして当社ならではの全社員研修でも、まずは「やらせてみる」を実践しています。従業員のひとりひとり、豊かな個性を持っているのがわかったからです。そういう潜在能力を引き出し、活かしていくことが環境活動の推進、本来業務の改善につながっています。手書きのマップに出てくるハチやeco2郎(エコジロウ)のイラストも、そうして生まれてきたものなのです。